

# 公益社団法人日本マレーシア協会 2024年度事業報告



写真上:「マレーシア政府公務員研修プログラム修了式(2024年11月)  
写真下:「タカサゴの森 熱帯雨林再生プログラム」植樹行事(2024年11月)

2025年4月1日

# 国内における活動

## ●都内におけるマレーシア政府公務員研修プログラムへ協力

2024年11月、2023年度に引き続き、マレーシア政府公務員（連邦政府、州政府等の中間管理職）を対象とした海外研修プログラムを都内で実施しました。本プログラムは、ルック・イースト政策のもと、マレーシア政府人事院より国立マレーシア科学大学人材育成センターが委託を受け、日本で実施した公務員研修プログラムで、本協会は後援団体として実施に協力しました。今回は、2週にわたり2グループが来日して都内で研修を行いました。第1グループはセランゴール州政府及び国立マレーシア科学大学の中間管理職員35名、第2グループは連邦政府各省庁とペラ州政府の中間管理職員19名が参加しました。

日程

グループ1 2024年11月10日（日）～17日（日） グループ2 2024年11月18日（月）～25日（月）

実施内容

日本における地方自治体改革などに関する講演、日本文化体験（習字）

駐日マレーシア大使を招いての開会式、同大使館で日本事情に関する意見交換

総務省訪問プログラム：行政業務改革の取組みについて説明と意見交換

東京都庁訪問プログラム：シン・トセイ4.0 について説明と意見交換、都議会議事堂見学

第一衆議院議員会館国際会議室で研修のまとめと修了式、国会見学



総務省で質疑応答（左）、都庁で未来型オフィス整備現場を視察（右）



駐日大使を招いて開会式（左）、習字に挑戦（右）



研修のまとめとしてグループ発表（左）、修了式で修了証を渡す古屋会長（右）

## 国内における活動

### ●マレーシア独立記念日祝賀会に参加

2024年10月16日(水)夕刻、都内のホテルで、駐日マレーシア大使館主催によるマレーシア独立記念日祝賀レセプションが開催され、本協会から小川理事長と森田理事が参加しました。当日は、宮本新吾外務省アジア大洋州局・南部アジア部参事官、永野毅日本マレーシア経済協議会会長ほか、在京外交官らが訪れ、ダト・シャフリル大使に祝意を伝えました。



### ●在ペナン総領事が来訪

2024年11月8日(金)午後、町田信也在ペナン総領事がご着任前に本協会事務所を訪問されました。小川理事長らが応対し、マレーシア半島北部でのマングローブ植林活動や教育支援活動などについて説明したほか、意見交換を行いました。



### ●新春の集いを開催

会員及びご支援頂いている皆様方へご報告と感謝を申し上げ、相互交流を行うための「新春の集い」を2025年2月18日(火)夕刻、国際文化会館セミナーホールで開催しました。当日は、本協会役員・会員並びにご支援を頂いている関係者の方々約60名が参加しました。

はじめに、古屋圭司本協会会長が開会挨拶を述べ、続いて、ダト・シャフリル駐日マレーシア大使、永野毅日本マレーシア経済協議会会長、宮本新吾外務省南部アジア部長より来賓ご挨拶を頂きました。本協会の最新活動報告の後、紺綬褒章伝達式を執り行い、株式会社木下グループの和田野知尋取締役広報担当役員に、有村治子本協会副会長から紺綬褒章に係る褒状を贈呈しました。その後、有村副会長の乾杯発声を経て、懇親会へと移り、参加者同士による活発な交流が行われました。



会場の様子(左)、古屋会長(中央)、永野会長(右)



宮本部長(左)、紺綬褒章伝達式にて左からダト・シャフリル大使、和田野取締役、有村副会長(右)

# マレーシアにおける活動

1995年より、企業、団体、個人からのご協力を得て、ボルネオ島サラワク州において熱帯雨林再生のための植林活動を行っています。2018年からは、マレーシア半島部クダ州などにおいて、マングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で、熱帯雨林再生活動を展開しています。

## ●ボルネオ島サラワク州における活動

### 株式会社木下グループ

#### 「木下の森」植林プロジェクト 青少年研修プログラム

アペン国立公園「木下の森」地域にて、地域の小学生、大学生、村人などが参加する「青少年研修プログラム」を実施しました。2024年5月18日(土)にトゥリアン小学校の児童・教員35名、6月22日(土)にスンガイ・リム小学校の児童・教員・PTA40名、2025年2月22日(土)にムボック・ブラウン小学校の児童・教員38名が参加し、植林作業と環境教育プログラムを行いました。

今後、植林体験の様子を描く絵画コンテストを小学校で行うほか、優秀作品を国内やクチン市内で展示する予定です。



### 三菱商事株式会社

#### サラワク州先住民居住地域における住民参加型熱帯雨林再生プロジェクト

アペン国立公園とサバル国立公園において、2008年度から2022年度までに約54万本の植林を行いました。

2023年度より、7月から6月を事業年度として、既植栽木のメンテナンスとサバル国立公園で年間8千本の植林と活動地域の子供達を対象とした環境教育プログラムを実施しています。村の女性が育苗する苗木購入を通じて、村の生活向上支援も行っています。

2024年5月11日(土)にスンガイ・ピナン小学校の児童・教員45名、6月15日(土)にニヤリタック小学校の児童・教員40名が参加し、域住民及び森林公社担当官らとともに、植林作業と環境教育プログラムを行いました。



## 株式会社ジェイエシーリクルートメント

### PPPプロジェクト・「ジェイエシーリクルートメントの森」熱帯雨林再生プロジェクト

アペン国立公園とサバル国立公園で、「PPPプロジェクト」として、2023年ご寄付分の6,896本と2024年ご寄付分の128本、計7,024本の植林を行いました。

2024年度より、「ジェイエシーリクルートメントの森」として、サバル国立公園の森林劣化地域に区画を設け、地域社会と共に森林再生に取り組むプロジェクトを新たに開始しました。5年間で2万本の植林を行うほか、年間1回、地域の子供達に参加する環境教育プログラムを行います。

2025年3月22日(土)に、活動地周辺の4村落から60名、州政府機関関係者等80名が参加し、植樹プログラムを開催しました。



## 株式会社ダンロップホームプロダクツ ダンロップホームプロダクツの森

サンパディ保護林で、今年度は1,600本の植林作業を2024年10月に実施し、その後、既植栽木のメンテナンス作業を実施しています。

2010年から植林を実施してきた地域が、2025年1月サラワク州森林局の保護区画として新たに登録されることになったほか、活動地域にある同局の苗圃を本協会の活動用に使用できることになりました。



プロジェクト看板と植栽木

## 高砂熱学工業株式会社

### 「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラム

2024年1月からマレーシア・サラワク大学構内で第2期活動を開始し、年間1千本の森林多様化植林を行っているほか、年に1回、大学生と地域社会が参加する植樹行事を開催しています。

2024年11月23日(土)、マレーシア・サラワク大学の学生・教員・スタッフ、地域の小学生、高砂熱学工業グループ社員の方々など120名が参加して植樹行事を実施しました。当日は、フタバガキ科在来種や在来果樹等10種類の苗木1,000本の植林作業を行いました。



メイン看板にて(左)、大学生や小学生と植林(右)

### 「パートナーシップフォレスト」

ダイードリンコ(株)の自販機設置ご協力企業・団体との「パートナーシップフォレスト」活動として、サンパディ保護林で2024年10月に399本の植林を行いました。

### 「ボルネオ島熱帯雨林再生活動」

小規模の植林プログラムとして、2024年6月に青年海外協力隊マレーシア会有志のご協力を得て、アペン国立公園で55本の植林を行った場所に、2025年1月、新たなご寄付分として2本の植林を追加しました。

### 「村の女性による育苗プログラム」

植林活動地域住民の生活向上と参加型プログラムの推進として、村の女性による育苗プログラムをアペン国立公園地域とサバル国立公園地域の村落で実施しています。

### 「作業道のメンテナンス」

植林作業を円滑に進めるために、活動地域の作業道を定期的に修繕しています。2024年11月から、アペン国立公園内の作業道のメンテナンスを行い、今年のプログラムに備えています。

### ●オランウータン保護へ協力

#### オランウータン保護へ協力

本協会では、2017年度より、サラワク州セメング野生生物保護区のオランウータン保護センターへ、オランウータンが暮らす森の保全と、オランウータンの保護活動への協力として、毎年1千リングを寄付しています。2025年1月、酒井在サラワクコーディネーターが同センターを訪れ、センター長へ寄付金を渡しました。本協会では、引き続き、オランウータン保護への協力を続けます。

### ●学生ボランティアによる

#### 「オランウータンの森再生プロジェクト」

2024年より、財団法人日本財団ボランティアセンターと協働し、本協会の熱帯雨林再生活動地(サラワク州アペン国立公園)において、日本の大学生ボランティアの参加による「オランウータンの森再生プロジェクト」を行っています。

同センターが年間4回、毎回約15名の学生ボランティアをサラワク州へ派遣し、地域の人々と共に植林作業などを行っています。10年間の事業として行われ、合計10万本の植林を目指します。

2025年2月から3月には第五陣と第六陣の派遣、7月から9月には第七陣と第八陣の派遣が行われます。

毎回、2,500本の植林作業のほか、様々な地域支援活動が行われます。

本協会から小管理事補佐が全日程に同行し、プロジェクト進行のサポートを行っています。



パートナーシップフォレスト



村の女性による育苗プログラム



作業道補修(左) オランウータン保護へ寄付(右)



今年2月の第五陣の集合写真

## ●サラワク州における外務省関係協力事業(日本NGO連携無償資金協力事業第2期)

### サラワク州先住民居住地域における村落給水システム整備による生活改善と関連機関のネットワーク構築事業

場 所 サラワク州サバル国立公園周辺地域(第1期事業地から7km程度離れた2村落を対象)

内 容 現地NGO、サラワク州政府機関、マレーシア・サラワク大学、地域住民等と協働し、脆弱な水環境により生活が困窮している農村の村落給水システムを整備し、村の生活改善を行いました。関連機関とのネットワークを構築し、村落給水の状況調査と情報共有を行うとともに、事業成果を他地域へ普及するための体制づくりに取り組みました。

期 間 2024年4月～2025年3月(単年度申請による3年間の事業の1年目)



対象2村の村人との合同事業説明会(左)、村の水源地に堰堤を造成(右)



水源地から導水パイプを村まで敷設(左)、水環境改善後の状況を聞き取り調査(右)



地区役所で事業成果を共有(左)、水環境の維持管理についてワークショップを開催(右)

## ●半島部クダ州他における活動

マレーシア半島部クダ州ムルボック湿地保護林において、2019年度より、劣化したマングローブ林の再生と環境教育及び生活向上プログラムを実施しています。2023年度から、ペナン州のマングローブ林保全地域での活動も開始しています。

クダ州とペナン州の森林局、マレーシア科学大学、地域社会と協働し、マングローブの育苗と植林、教育プログラム、修学支援プログラムなどを実施しました。

### 「木下の森」マングローブ林再生プロジェクト

クダ州ムルボック湿地保護林とペナン州スンガイ・アチェ保護林において、地域村落グループ、小学生・教員・PTA、マレーシア科学大学生らの参加を得て、6,000本の植林活動を行いました。

その他、地域住民グループによる育苗・植林作業、環境教育展示スペースの整備、村落生活向上プログラム、環境教育プログラムなどを行いました。



### 「ユアサ商事の森」プロジェクト

クダ州ムルボック湿地保護林とペナン州スンガイ・アチェ保護林において、地域住民グループ、ペナン州大学予科校学生・教員らが参加し、5,000本の植林を行いました。

その他、地域住民グループによる育苗・植林作業、村落支援プログラム、修学支援プログラムなどを行いました。



## ●半島部クダ州及びペナン州における活動

植林活動のほかに、「木下の森マングローブ林再生プロジェクト」の一環として202410月から12月に、ムルボック保護林地域のハジ・オマー・タヒール小学校でマレーシア科学大学教育学部、クダ州教育庁と協働し、教育プログラム「マングローブ・ラボ・プログラム」を実施しました。

農漁村地域の子供達の学習意欲と理科系学力の向上を目指し、マングローブの葉を用いた紙づくり、その葉と生ごみによる堆肥づくり、その堆肥を肥料にした野菜栽培と野菜を用いた料理づくり、マングローブ保全アプリづくりのプログラムを行いました。



また、「ユアサ商事の森プロジェクト」の一環として、昨年に引き続き、クダ州ムルボック保護林周辺村落の子供達が通うハジ・オマー・タヒール小学校の児童への修学支援プログラムを行いました。2024年12月15日(日)、町田信也在ペナン日本総領事をお迎えし、修学支援グッズの贈呈式を行いました。生活保護を受けている家庭の子供達200名へ新学年度用文房具を、困窮家庭の子供20名へは文房具に加えて制服、カバン、靴も寄贈しました。

